

Dumplogユーティリティの使用方法について

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[ダンプログユーティリティの機能](#)

[ログファイルディレクトリにアクセスする方法](#)

[用途](#)

[ダンプログ例](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Intelligent Contact Management(ICM)プロセスログを表示できるdumplogユーティリティについて説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- ソフトウェアの問題のトラブルシューティング方法
- Cisco ICM

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco ICMに基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

ダンプログユーティリティの機能

dumplogユーティリティは、Cisco ICMプロセスによって書き込まれたバイナリログファイルを読み取り可能な形式に変換します。変換後、ログファイルの内容を参照して、ICMの動作を把握できます。通常、dumplogはトラブルシューティング用のツールとして使用されますが、教育用としても使用できます。

dumplogユーティリティは、ICMサーバのコマンドプロンプトから直接起動するか、ICMサーバへのTelnetセッションから起動できます。

注：次の例では、ICMがCドライブにインストールされていることを前提としています。ICMが別のドライブにインストールされている場合は、それに応じてディレクトリの場所が変更されます。

このドキュメントで使用されているサーバの命名規則については、「[ICMサーバの命名規則](#)」を参照してください。

ログファイル ディレクトリにアクセスする方法

Cisco ICMログファイルディレクトリへのパスは、<root>\icm\customer instance name\node nameです。ここで、<root>はICMがインストールされているドライブです (C、D、Eなど)。

たとえば、Cisco ICM Call RouterがCドライブにインストールされていると考えられる場合、geocscortraのlogfileディレクトリは次の場所にあります。c:\icm\csco\rtal\logfiles にアクセスしてください。

注：これは、logfilesディレクトリへのショートカットとして使用できます。c:\>cdlog
<cust_inst> <ICM_Node>。

用途

このセクションでは、**dumplog**ユーティリティのコマンドラインオプションを示します。特定の時間内にCisco ICMログファイルを表示できるため、問題の解決に役立ちます。期間は/bd、/bt、/ed、および/etスイッチで定義できます。ユーザは、ICMの動作に関する問題をさらに切り分けてトラブルシューティングするために、特定の文字列を検索することもできます。

この情報は、『Cisco Intelligent Call Router Administrator Guide』にも記載されています。

```
dumplog [ProcessName(s)] [/dir Dirs] [/if InputFile] [/o]
[/of OutputFile]
[/c] [/bd BeginDate(mm/dd/yyyy)] [/bt BeginTime(hh:mm:ss)]
[/ed EndDate(mm/dd/yyyy)] [/et EndTime(hh:mm:ss)] [/hr HoursBack]
[/all] [/last] [/prev] [bin] [/m MatchString] [/x ExcludeString] [/ms] [/debug]
[/ciscoLog]
[/unzipCmdPrefix Prefix for Unzip command]
[/unzipCmdInfix Infix for Unzip command]
[/unzipCmdPostfix Postfix for Unzip command]
[/unzipTempfile Temporary filename for unzip command]
[/zipPostfix Postfix of zipped files]
[/tzadjustoff]
[/help] [?]
```

パラメータの説明

プロセス名	このコマンドは、他の引数で別の日付または時刻を指定しない限り、このプロセスの
/dir Dirs	Directoryは、/dirスイッチの後のコマンドラインにリストされたプロセスのログファイ
/if	InputFileは、ダンプする特定の.ems ファイルを指定します。/ifトークンはオプションで
/o	\logfilesディレクトリのテキストファイルに出力を書き込みます。ファイル名は、指定
/of	OutputFileは出力テキストファイルを指定します。たとえば、c:\temp\mylog.txt にアク
/c	連続出力を指定します。このコマンドは、ログの最後に到達すると終了しません。代
/bd	BeginDate (mm/dd/yyyy)を指定します。/btとともに使用すると、日付の範囲が指定され
/bt	BeginTime(hh:mm:ss)を指定します。時間の範囲を指定するには、/etを使用します。

<code>/ed</code>	EndDate (mm/dd/yyyy) を指定します。日数の範囲を指定するには、 <code>/bd</code> を指定します。
<code>/et</code>	EndTime(hh:mm:ss) : 終了時刻を指定します。時間の範囲を指定するには、 <code>/bt</code> を使用します。
<code>/hr</code>	HoursBack は、現在の時刻から戻る時間数を指定します。
<code>/all</code>	指定したプロセスログファイルのすべての情報を表示します。
<code>/last</code>	プロセスの最新のログファイルの情報を表示します。
<code>/prev</code>	プロセスの最後から次のログファイルの情報を表示します。
<code>/m</code>	MatchString は、指定された文字列に一致するイベントのみを表示します。
<code>/x</code>	ExcludeString は、指定された文字列に一致するイベントを含まないイベントのみを表示します。
<code>[/ms]</code>	ミリ秒単位でタイムスタンプを表示します。
<code>[/mc]</code>	マージされたログをダンプするときは、複数の色を使用します。各プロセスには異なる色を使用します。
<code>/ciscoLog</code>	CiscoLog 機能を有効にします。
<code>/unzipCmdPrefix</code>	unzip のプレフィックスパラメータ (<code>gzip -d -c</code> など)。
<code>/unzipCmdInfix</code>	unzip のパラメータを挿入します (" <code>></code> " など)。
<code>/unzipCmdPostfix</code>	unzip の Postfix パラメータ (" <code>"</code> など)。
<code>/unzipTempfile</code>	解凍する一時ファイル (例 : <code>temp.ems</code>)。
<code>/zipPostfix</code>	".gz" など、ファイルの後置形式のパラメータ。
<code>/tzadjustoff</code>	EMS ファイルが異なるタイムゾーンのシステムにコピーされた場合、またはシステムが異なるタイムゾーンにある場合、 <code>/tzadjustoff</code> が使用されます。

注 : リダイレクトされたログファイルを Microsoft メモ帳で表示するには、ログファイルをテキストファイルに保存し (`dumplog /of` 引数を使用)、コマンドプロンプトから `notepad filename` コマンドを使用してテキストファイルを開きます。

ダンプログ例

次の例は、1999年4月29日から1999年4月30日まで `rtr` ログファイルをルータにダンプする方法を示しています。`rtr.txt` というログファイルに出力されます。`rtr.txt` ファイルは、メモ帳などの標準テキストエディタで表示できるようになりました。

```
c:\icm\cisco\rtra\logfiles dumplog rtr /bd 04/29/1999 /ed 04/30/1999 /o
```

このコマンドは、新しいログファイルが最後に出力用に開かれた時点で開始するペリフェラルゲートウェイ (PG) からの `pgag` ログファイルをダンプします。

```
c:\icm\cisco\rtra\logfiles dumplog pgag /last
```

このコマンドは、複数のプロセスからのログをインターレース方式でダンプし、出力を1つの出力ファイルに書き込みます。

```
dumplog /ms /hr 1 /of output.txt rtr mds rts
```

```
14:51:40:298 ra-rts Trace: Received 1 System Capacity Real Time records
14:51:40:298 ra-rts Trace: Updating base System Capacity Real Time record for ID1 1 and ID2 0,
cbRecSize=96
14:51:43:298 ra-rtr Trace: TIP: TIPUpLink::sendCongestionControlTIPMsg Sent
CongestionControlEvent
14:51:46:298 ra-rtr Trace: TIP: TIPUpLink::sendCongestionControlTIPMsg Sent
CongestionControlEvent
14:51:49:298 ra-rtr Trace: TIP: TIPUpLink::sendCongestionControlTIPMsg Sent
CongestionControlEvent
14:51:49:688 ra-mds MDS Process is reporting periodic overall metering statistics.
```

ハイフン付きの構文もサポートされています。

```
dumplog -ms -hr 1 -of output.txt rtr mds rts
```

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。